

## 研究名 胎盤の解析基盤の開発

国立成育医療研究センター、および分担研究機関は、成育医療を向上させ、より良い診療を行う役割を担っており、診療・医療技術の向上を目指した医学研究に皆さまの診療情報や試料等を利用させて頂いております。

胎盤は分娩後必ず娩出され、通常病院では廃棄しています。しかし様々な手法で解析を行うことにより妊娠に関わる様々な疾患の原因の解明に役立つため、下記の研究に活用させて頂いております。この研究は国立成育医療研究センターの倫理審査委員会の承認を得たのち、各施設の施設長の許可のもとで行われております。

### 1. 研究の目的

この研究の目的は、胎盤を詳細に調べるための様々な方法を確立することです。これらの方法が確立すると、より詳細に正常・疾患胎盤を解析することができるようになります。それにより、はっきりとした原因が分かっていない妊娠合併症(妊娠高血圧症候群や胎児発育不全、不育症など)の病態や、妊娠合併悪性腫瘍及びその治療が胎児・胎盤に与える影響の解明につながり、新たな治療戦略や予防法の開発が可能になる可能性があります。

### 2. 研究の方法

① 研究対象：成育医療研究センターおよび聖路加国際病院で、2017年4月1日から2024年8月31日までに本研究への参加にご同意いただいた方

② 研究期間：倫理審査承認後～2027年3月

③ 研究方法：

使用検体：分娩後や流死産後の胎盤や絨毛組織

方法：細胞を分離して凍結した状態、あるいは組織自体のまま保存し、凍結した細胞は解凍して培養するなどの様々な方法で解析します。胎盤組織に対しては、組織学的検討や mRNA・タンパクの発現解析を行います。

同意取得時点からの変更点：国立精神神経医療研究センターが分担研究施設として加わり、当該施設へ分離した細胞を提供し、胎盤検体の mRNA やタンパク発現解析を行うこととなりました。提供先での試料・情報は、国立精神・神経センター神経研究所本館 3 階、病態生化学研究部の鍵のかかるキャビネットに保管されます。このような検体の利活用を希望されない場合は、2024年12月までに下記連絡先にお申し出ください。

### 3. 研究に用いる情報の種類

妊婦さんの生年月日、既往歴、家族歴、分娩予定日や妊婦健診の記録、検査結果、治療内容、産まれた赤ちゃんの体重や出生時の情報、胎盤所見など

※妊婦さんの氏名など、個人を特定できる一切の個人情報は調査対象ではなく、個人情報  
は保守されます。

#### 4. 情報の公表

本研究により得られた研究の成果は、学会発表及び学術論文などによって公表に努めます。解析結果は公的データベース(NBDC 等)に公開する可能性があります。公開する際には、NBDC などのデータ共有ポリシーにより、それらに登録したデータは個人が特定できない形で国内外の研究機関や製薬会社などの民間企業の研究者により利活用される可能性があります。

#### 5. 研究実施機関

国立成育医療研究センター、聖路加国際病院、国立精神神経医療研究センター

#### 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

##### ○照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

国立成育医療研究センター 免疫アレルギー・感染研究部 本村健一郎

住所：〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1

電話：03-3416-0181（内線：4970）

##### ○研究代表者

国立成育医療研究センター 免疫アレルギー・感染研究部 松本健治